

第84回 **朝鮮語**教育学会 on line

2020年6月14日

||
韓国語教育実情調査報告
— 中間報告 —

パイロット
調査

韓国語教育実情調査分科会

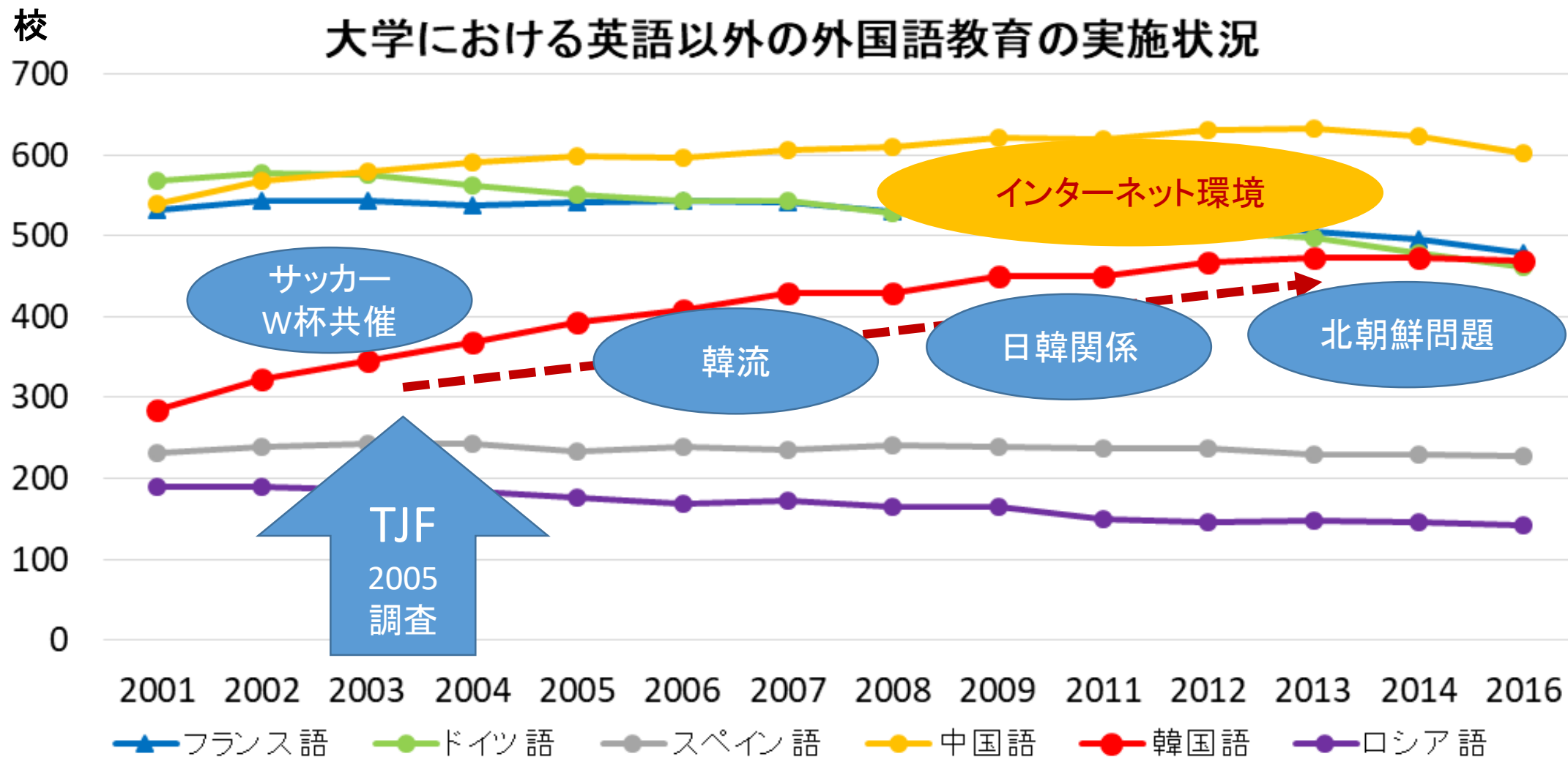
李淑炫、呉ヨンミン、小島大輝、須賀井義教、丁仁京
南潤珍、朴鍾厚、長谷川由起子、松崎真日、山下誠

※この調査研究は **韓国**国際交流財団（Korea Foundation）
の研究費助成のもと行われています。

もくじ

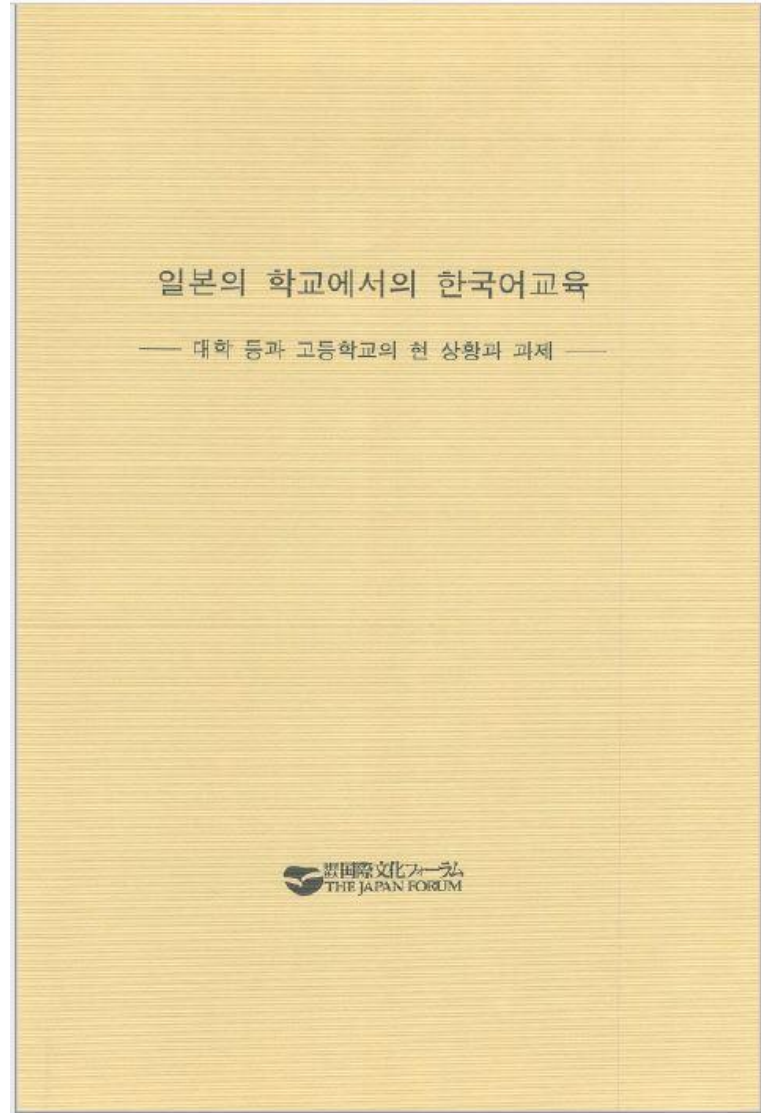
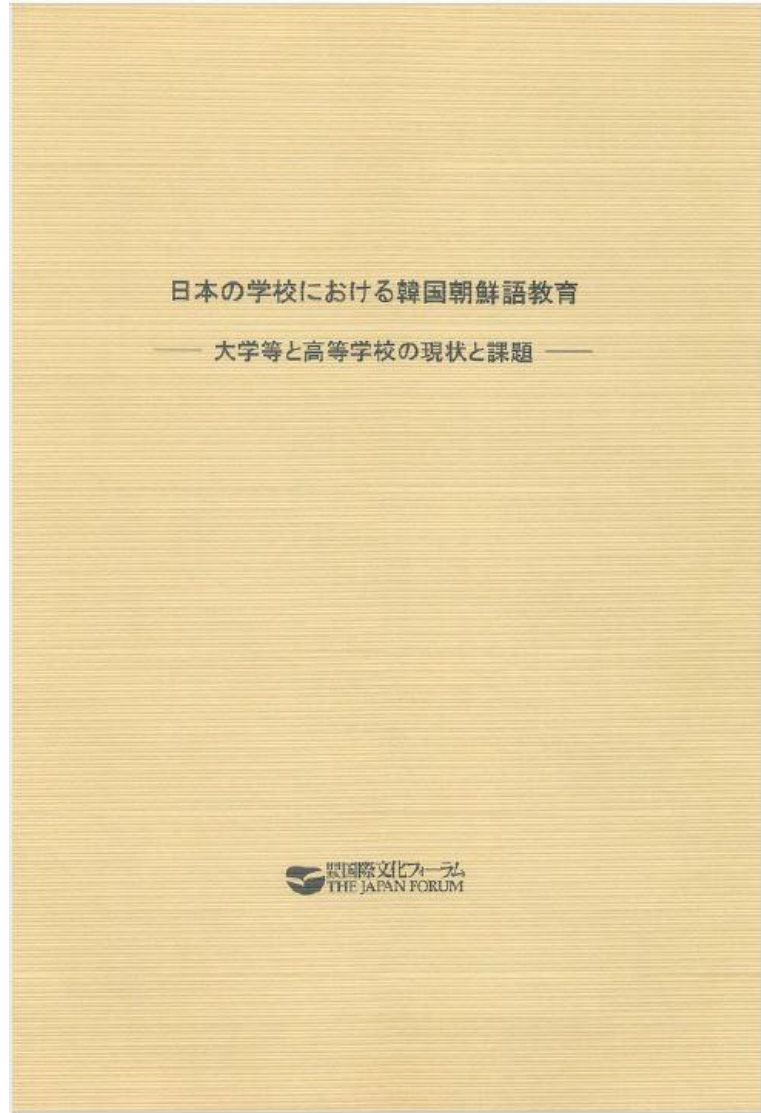
- ★ 1. 趣旨説明（長谷川由起子）
- 2. 大学調査結果概要（須賀井義教）
- 3. 高校調査結果概要（山下誠）
- 4. 課題・今後の展望（長谷川由起子）

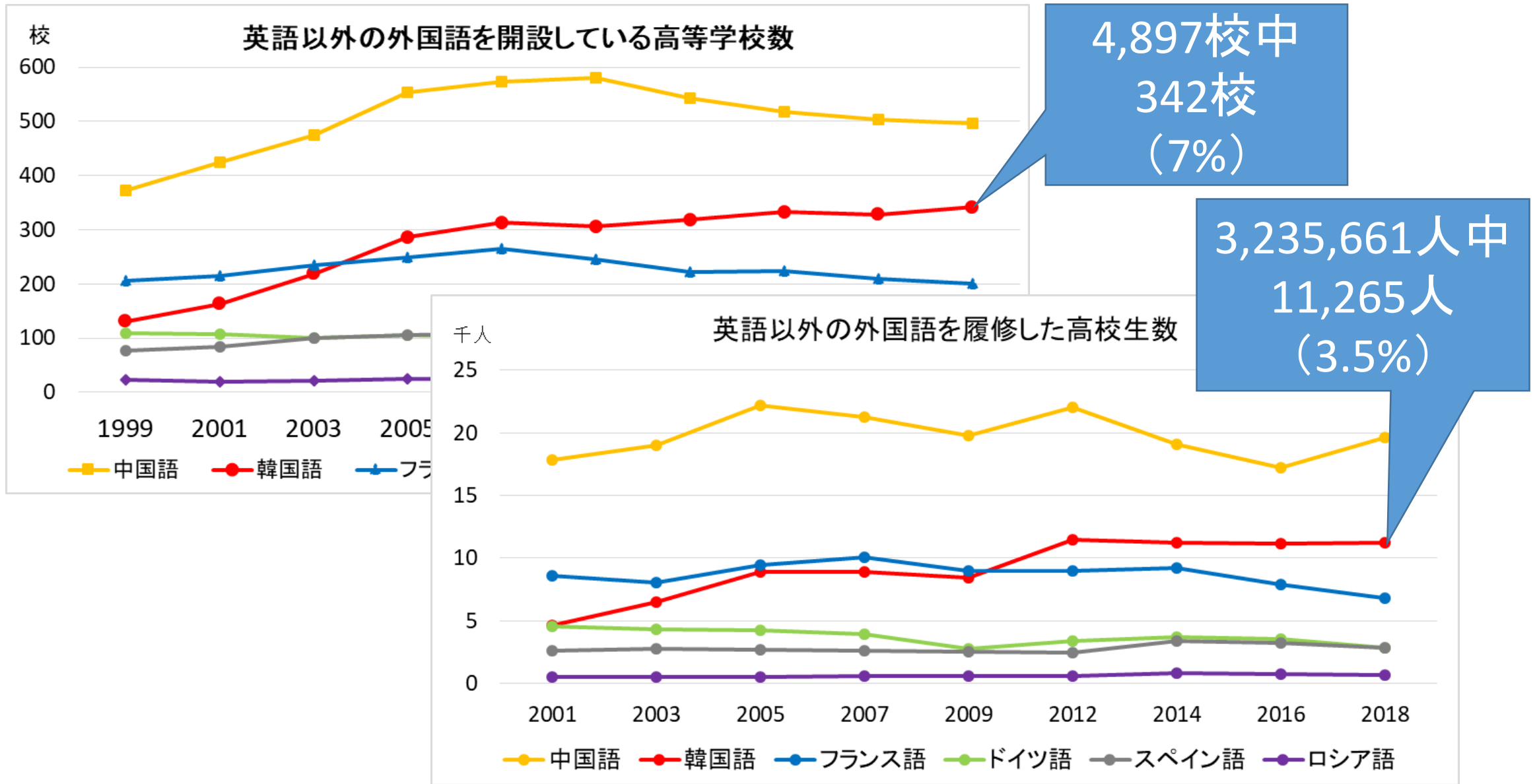
大学における英語以外の外国語教育の実施状況



(文科省大学改革推進室 2002~2019より作成)

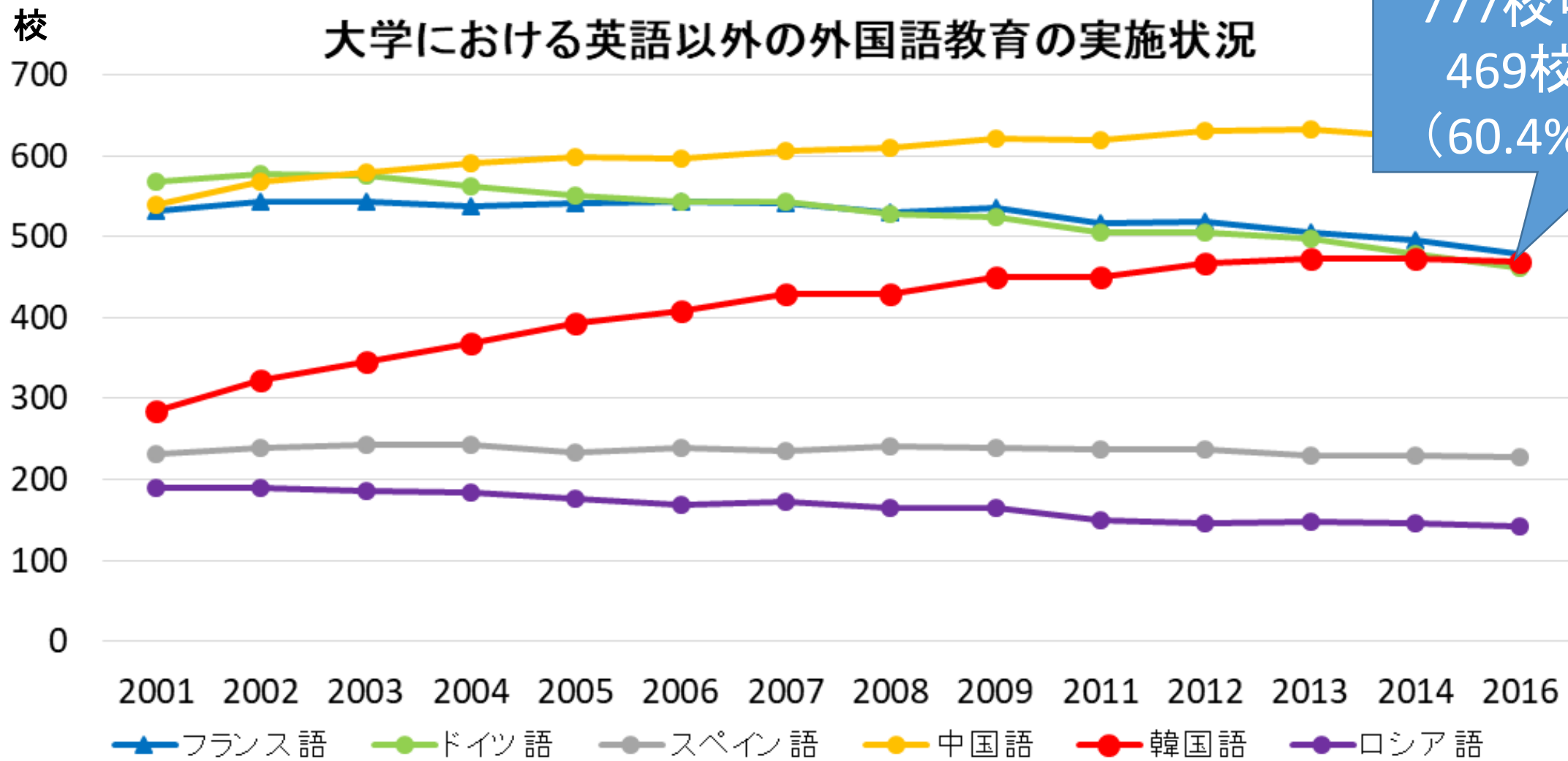
- 国際文化フォーラム(TJF2005)





(文部科学省初等中等教育局国際教育課2002～2019より作成)

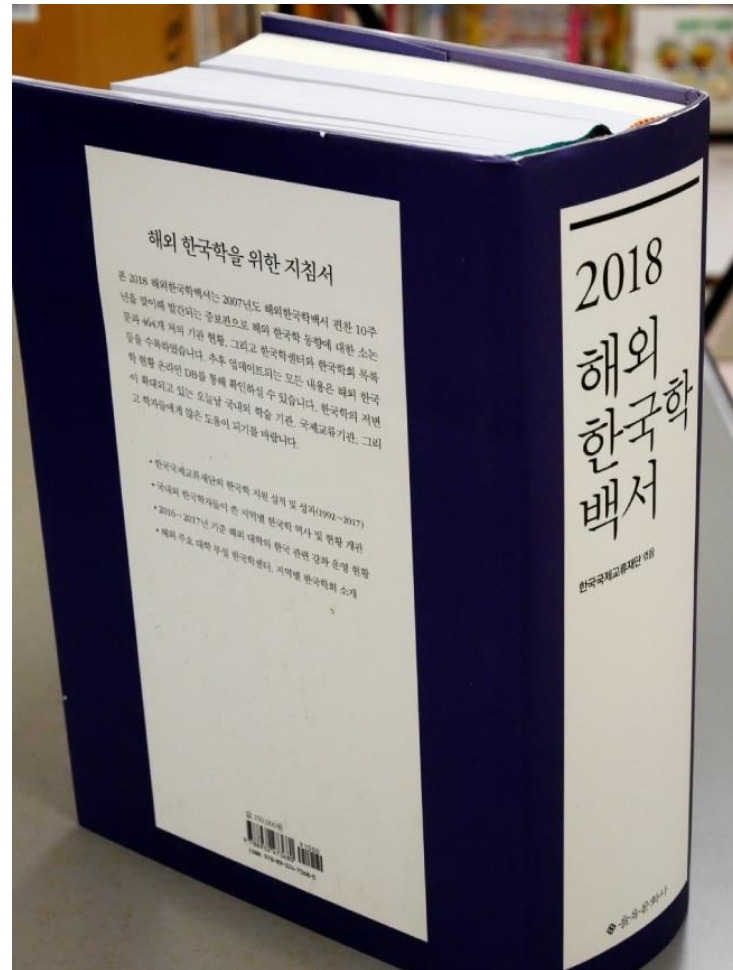
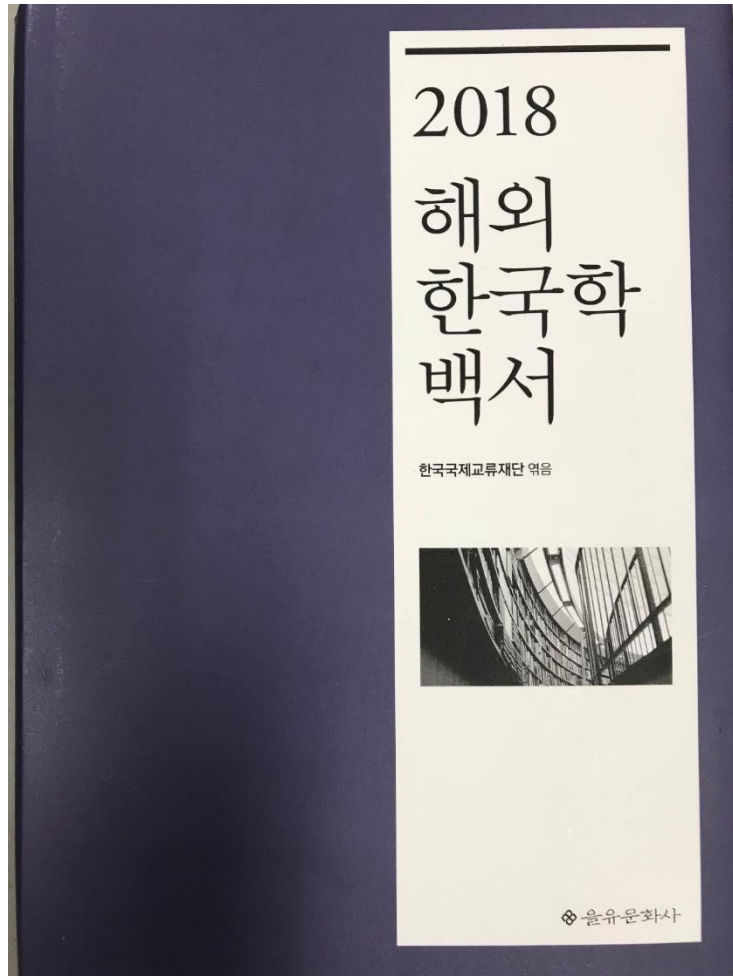
大学における英語以外の外国語教育の実施状況



777校中
469校
(60.4%)

(文科省大学改革推進室 2002～2019より作成)

• 韓国国際交流財団『2018 해외 한국학 백서』



<차례>

- I 해외 한국학
지역별 현황 논문
- II 해외 한국학
분야별 현황 논문
- III 해외 한국학 대학별
상세 현황
- 부록 해외 한국학
현황 조사 대학 목록
센터 목록
학회 목록
KF 사업 안내

日本の大学機構やカリキュラムの複雑さを踏まえていないため
韓国語教育の実情が浮かび上がっていない。

本調査の目標

- 日本の学校の現状に即した枠組みの中で、韓国語教育の実情を総合的かつ詳細に把握する。
- 日本の韓国語教育のパタン/学習モデルを描き出す。
 - ⇒全体の中での個々の位置づけが可能となる。
 - ⇒機関間の関連づけ(高大連携など)が可能に。
- 現在のレベル標準を検証するための資料とする。

- 近年、大学等の授業シラバス等の公開により、かなりの部分をインターネット検索で調べることが可能

科目名、担当者、教材、到達目標、評価方法

- どうしても現場に訊かなければ分からない部分

教育システム(学部別?センター方式?)

履修システム(必修?選択? 同時に何コマ履修?)

履修者数(実数?延べ数?)

**⇒複雑で多様なシステム下での正確な把握には
詳細な設問が不可欠**

◇参考にした外国語教育調査の先行例

国際文化フォーラム(2005)『日本の学校における韓国朝鮮語教育
—大学等と高等学校の現状と課題—』

大学335校、短大等75校、高校168校

日本独文学会ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会
(2015)『ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査報告書』

大学674学部、19専攻、短大25校、高専38校、高校51校

※1999年に続き2回目

한국국제교류재단(2018)『2018 해외 한국학 백서』

※2007年に続き2回目

◇他の教育実情調査事例

日本フランス語フランス文学会・日本フランス語教育学会（2012）

『フランス語教育実情調査報告書』

大学332校、短大52校、高専4校 ※1978年以來7回目

国際交流基金(2015)『日本語教育機関調査』

全世界・全教育機関 ※1974年以降5年おき、1990年以降3年おき

Modern Language Association (MLA)

Enrollments in Languages Other Than English in United
States Institutions of Higher Education ※3-4年おき

調査項目（本分科会の目的）

- 教育機関、プログラム種別（専攻・強化・教養）ごとに
- 教員の構成・専門分野（韓国学研究との関連）
- 履修条件、履修者数（プログラム別、レベル別）
- 教材および進度（学習単位数との関連）

十KFの目的（韓国学と韓国語教育の振興）に資する設問

調査結果の公開方法

- **朝鮮語教育学会**では、ご記入いただいた内容について、個人・組織が特定されない形で、広く研究や調査などの基礎資料として活用いただけるよう、学会HPで公開の予定。(今回は韓国語のみ)
- **韓国国際交流財団**では、大学HP等で公開されている情報についてはデータベースおよび書籍の形で公開する予定。ただし、個人の連絡先等に関しては、ご本人の許諾がない限り公開されない。

<http://www.kf.or.kr/koreanstudies/koreaStudiesList.do>

2019年度のパイロット調査概要

• 大学

対象: 調査分科会メンバーが直接依頼できそうな教員のいる大学
(1つの大学に複数のプログラム、担当者が別々の場合も)

回答: 100大学125プログラムに依頼⇒75大学91プログラムが回答

方法: MS word 版の設問紙にデータ記入→回収後web site に転記

• 高等学校

対象: JAKHES(高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク)会員に依頼

回答: 48校の回答(うち3校分は不備が多く無効)

方法: Google Form アンケートサイトに入力依頼

4. 課題・今後の展望

[課題]

- 調査期間に十分な余裕を持たせる
- 設問の再検討:より答えやすく誤解されない設問に
- 想定外に多様なシステムへの対応
- シラバスを通じた教材・学習到達度調査

※コロナ禍下での調査をどうするか？

4. 課題・今後の展望

- 調査対象の拡大（回答/依頼⇒**目標**回答/依頼）

大学 75/100⇒300/470 高等学校 43/50⇒200/315

短期大学 120/200 専門学校 8/12 高等専門学校 9/13

皆様のご協力をよろしく願っています。